

ワーク・ライフ・バランス推進のための意識調査(個人調査の速報)

【B】女性の継続就業に関する分析(案)

女性の就業状況に関する調査＜回収設計＞

対象者条件:6歳未満の子(第1子)と同居中の20歳以上の女性で、
 妊娠判明時に被雇用者(正社員・非正規社員)
 ※非正規社員は週30時間(h)以上の労働者

＜本調査設計＞ ※妊娠判明時の雇用形態

	正社員	非正規社員 (週30h以上)
30～100人未満	400	800
100～300人未満	400	
300人以上	400	
計	1200	800

2000

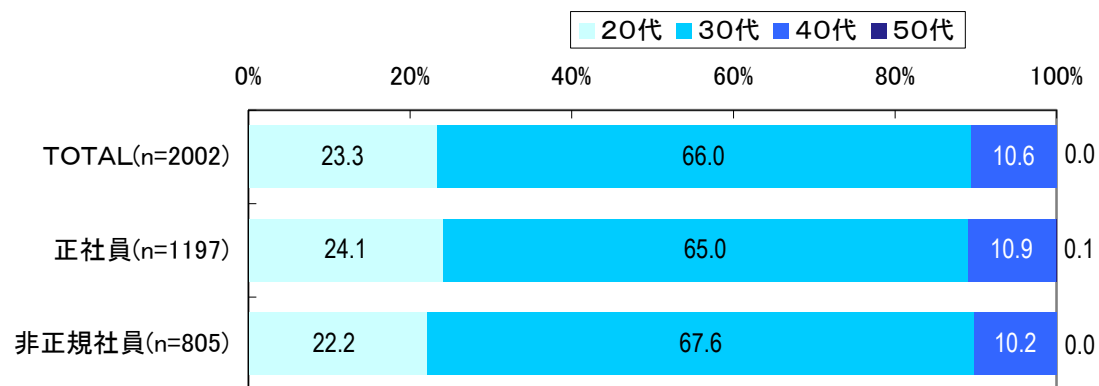
＜本調査回収＞

	正社員	非正規社員 (週30h以上)
30～100人未満	398	805
100～300人未満	398	
300人以上	401	
計	1197	805

2002

女性の就業状況に関する調査<回答者属性>

<年代比率>

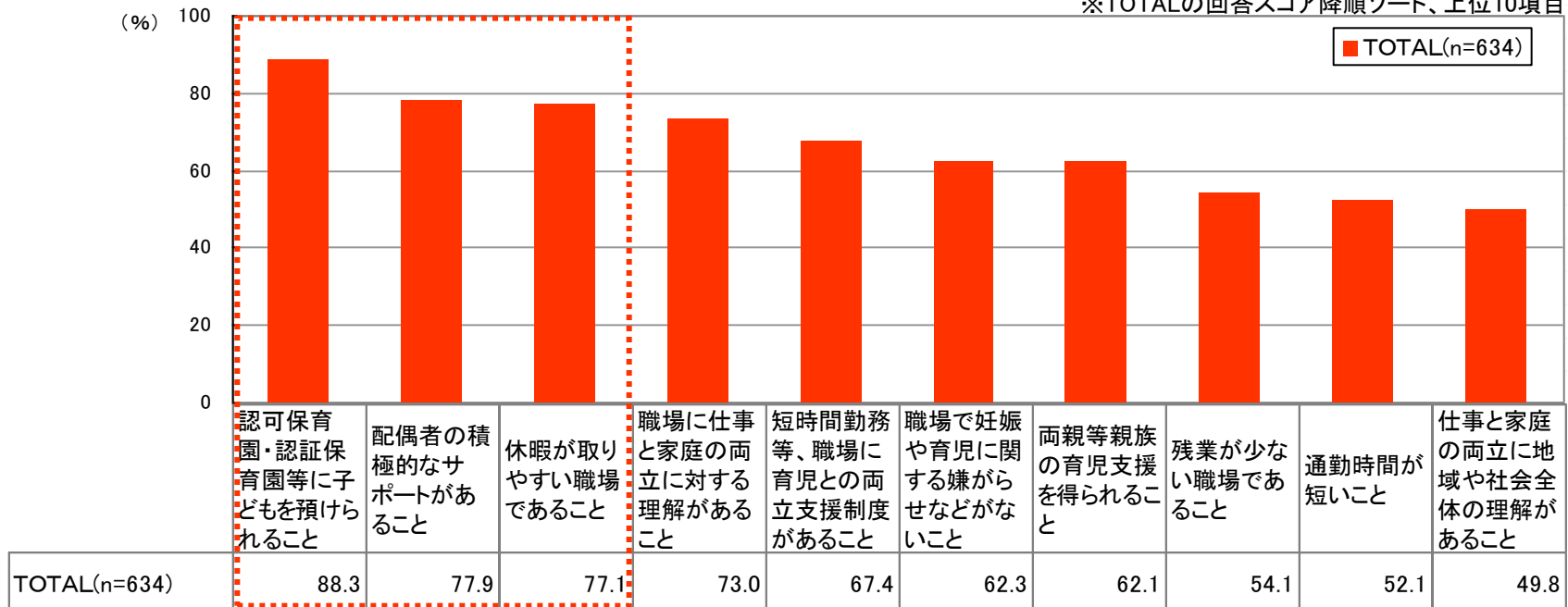


就業継続に一般的に必要なと考える条件【継続者】

- 第1子妊娠判明時に就業継続の意向があつて就業継続した人が、一般的に就業継続に必要なと考える条件は、「認可・認証保育園等に子どもを預けられること」が最も高く、次いで「配偶者の積極的なサポート」、「休暇が取りやすい職場」である。

●就業継続意向があつて、就業継続した人が、一般的に継続就業に必要なと考える条件(複数回答)

※TOTALの回答スコア降順ソート、上位10項目



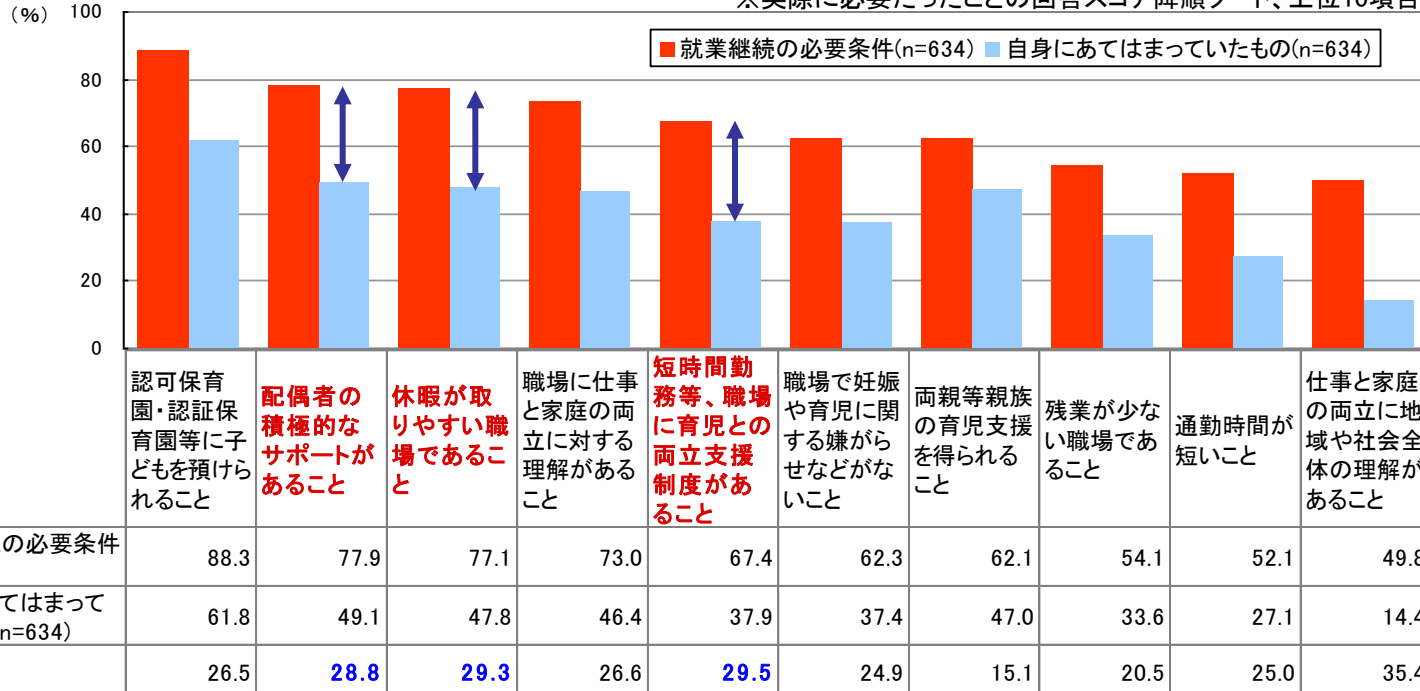
Q.第1子が1歳になったときに就労している方:一般的に出産後も働き続けるにあたり、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを全てお答えください。

就業継続に一般的に必要なと考える条件 意識と実際のギャップ

【継続者】

- 自身にあてはまっていたものでは、「保育園等に子どもを預けられること」、「**配偶者の積極的なサポート**」、「**休暇が取りやすいこと**」が高い割合を占めている。
必要と考えていても実際には条件が整っていないケースは多く、特に一般的に必要なと考えるが、自身にあてはまっていたことのギャップをみると、「**短時間勤務等職場の両立支援制度**」、「**休暇の取りやすさ**」に次いで、「**配偶者の積極的なサポート**」の差が大きい。
- 一般に継続就業に必要なと考える条件と実際に自身にあてはまっていたこと(複数回答)

※実際に必要だったことの回答スコア降順ソート、上位10項目



Q.第1子が1歳になったときに就労している方:一般的に出産後も働き続けるにあたり、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを全てお答えください。また、そのうち、あなた自身が第1子を出産されたときにあてはまっていたものについて、すべてお答えください。【継続意向有の継続者】

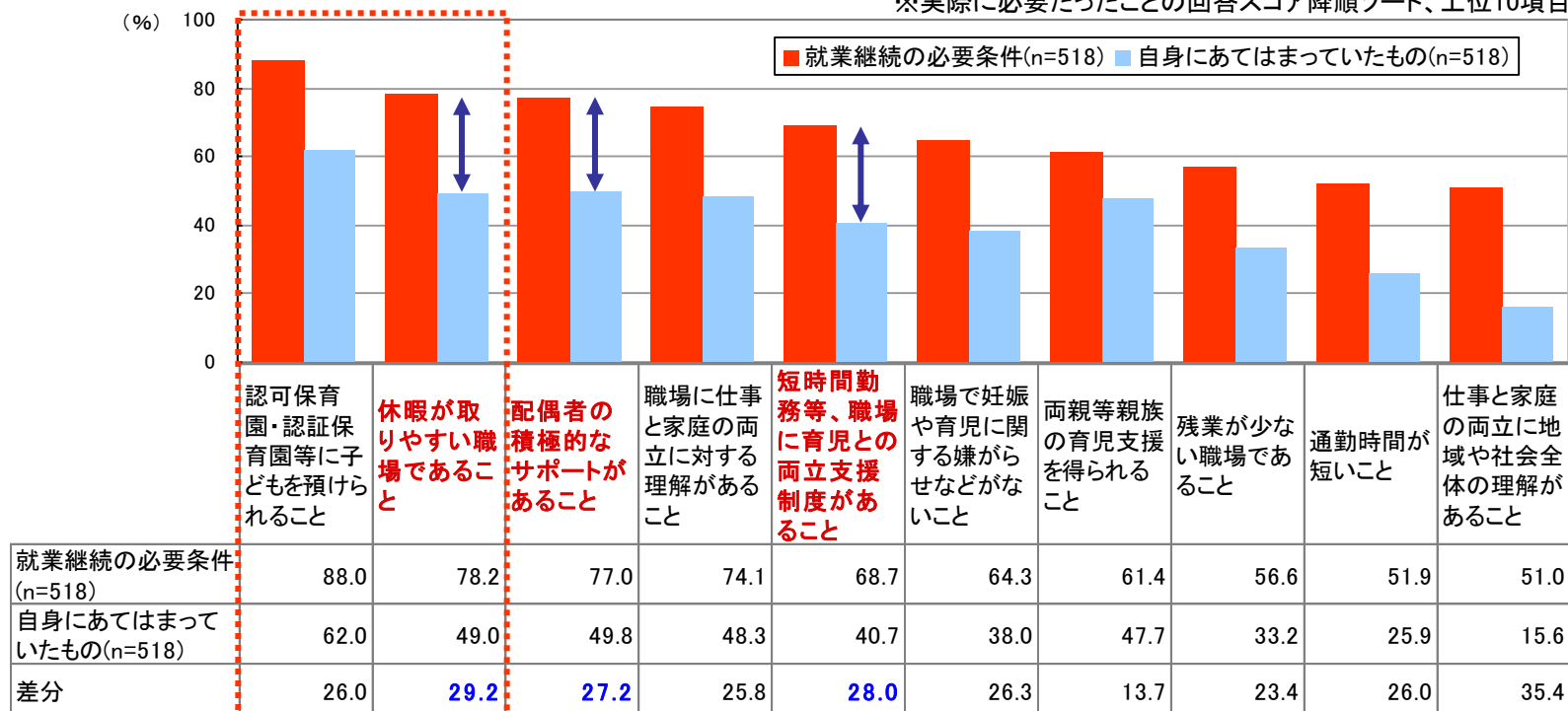
就業継続に一般的に必要なと考える条件 意識と実際のギャップ

妊娠判明時の雇用形態別【継続者／正社員】

- 就業継続に一般的に必要なと考える条件について、トップは「認可・認証保育園等に子どもを預けられること」。次いで、「休暇のとりやすさ」。
- 自身にあてはまっていたこととのギャップをみると、「休暇の取りやすさ」「短時間勤務等職場の両立支援制度」の回答が多い。

●正社員の一般に継続就業に必要なと考える条件と実際に自身にあてはまっていたこと(複数回答)

※実際に必要だったことの回答スコア降順ソート、上位10項目



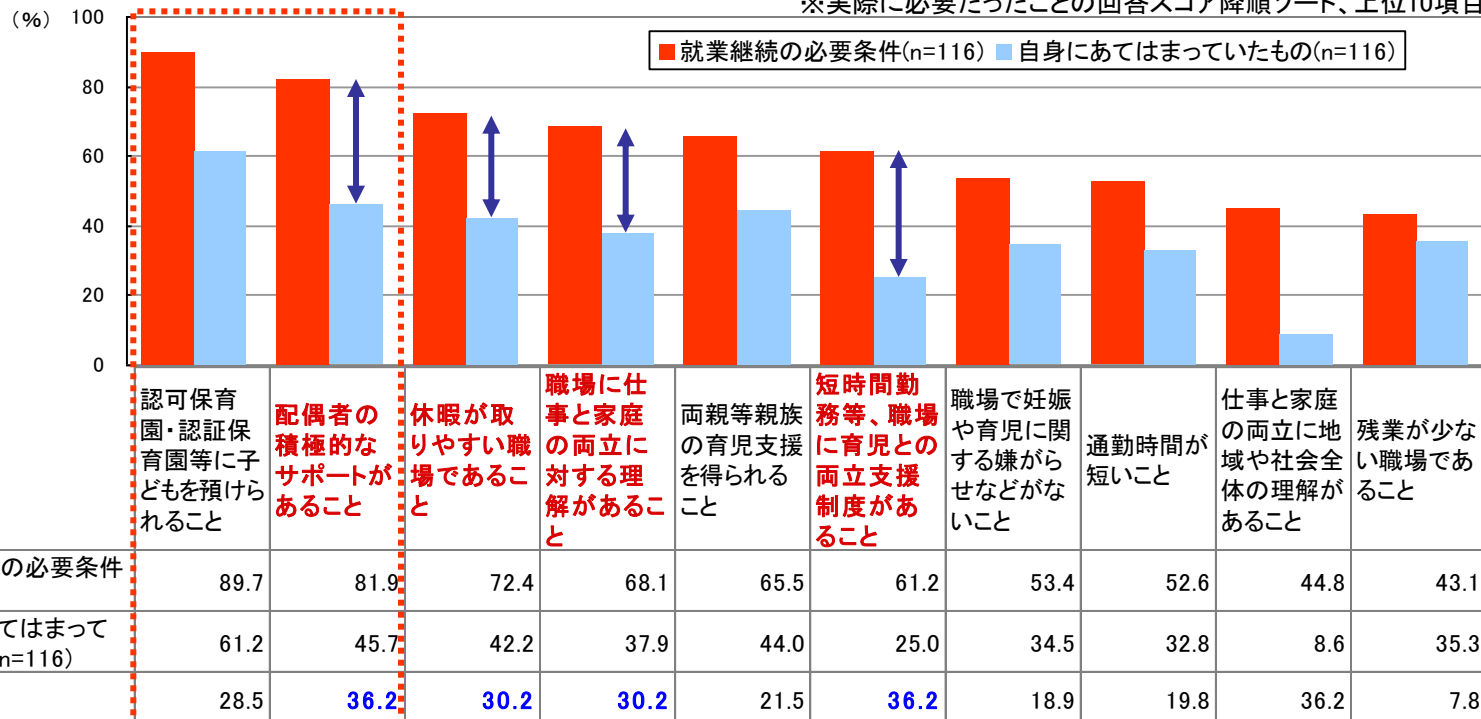
Q. 第1子が1歳になったときに就労している方：一般的に出産後も働き続けるにあたり、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを全てお答えください。また、そのうち、あなた自身が第1子を出産されたときにあてはまっていたものについて、すべてお答えください。【継続意向有の継続者(正社員)】

就業継続に一般的に必要なと考える条件 意識と実際のギャップ

妊娠判明時の雇用形態別【継続者／非正規社員】

- 就業継続に一般的に必要なと考える条件について、トップは「認可・認証保育園等に子どもを預けられること」。2番目は、「配偶者の積極的なサポート」。
- 自身にあてはまっていたこととのギャップをみると、「配偶者の積極的なサポート」や「休暇の取りやすさ」「短時間勤務等職場の両立支援制度」「職場での理解」の回答が多い。
- 非正規社員では、正規社員よりも「配偶者の積極的なサポート」に対するギャップが大きい。
- 非正規社員の一般に継続就業に必要なと考える条件と実際に自身にあてはまっていたこと(複数回答)

※実際に必要だったことの回答スコア降順ソート、上位10項目

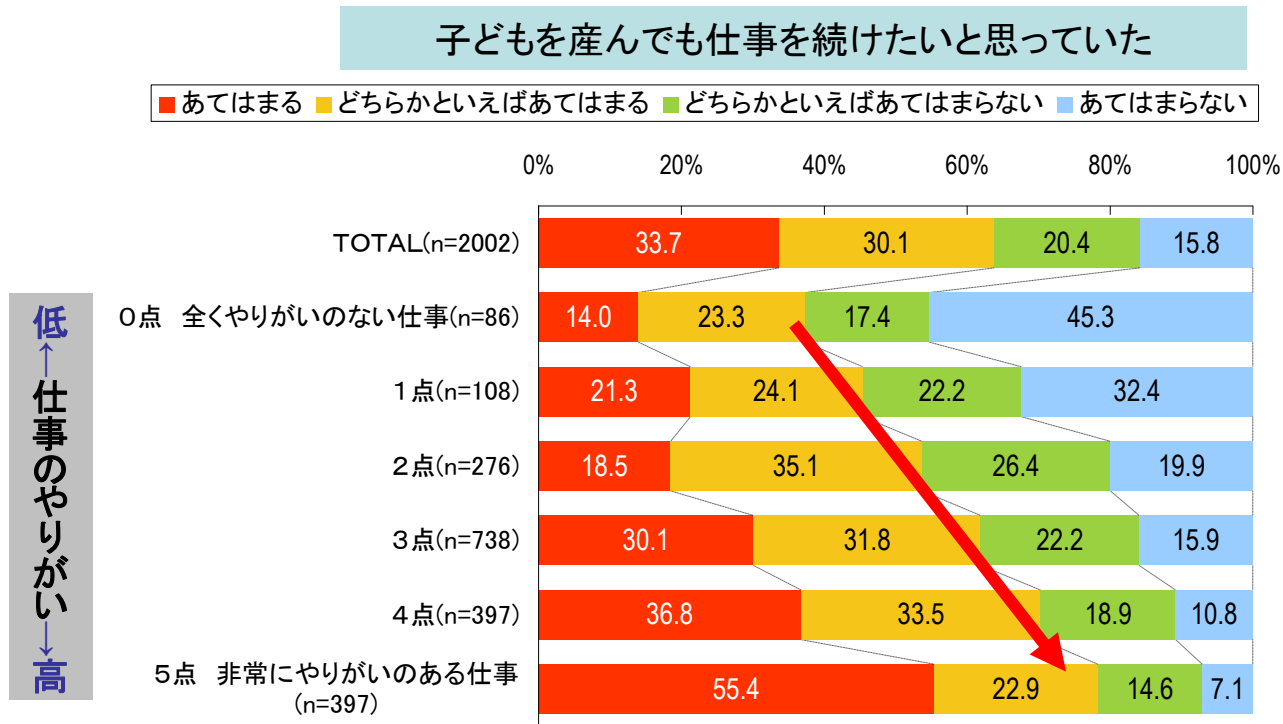


Q. 第1子が1歳になったときに就労している方: 一般的に出産後も働き続けるにあたり、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを全てお答えください。また、そのうち、あなた自身が第1子を出産されたときにあてはまっていたものについて、すべてお答えください。【継続意向有の継続者(非正規社員)】

仕事のやりがい度と就業継続意向

- 妊娠判明時の仕事のやりがい度が高いほど、「子どもを産んでも仕事を続けたい」と思う割合は高くなっている。

● 妊娠判明時の仕事のやりがい別の就業継続意向



Q.第1子の妊娠がわかったときのあなたのお考えをお答えください。「子どもを産んでも仕事を続けたいと思っていた」

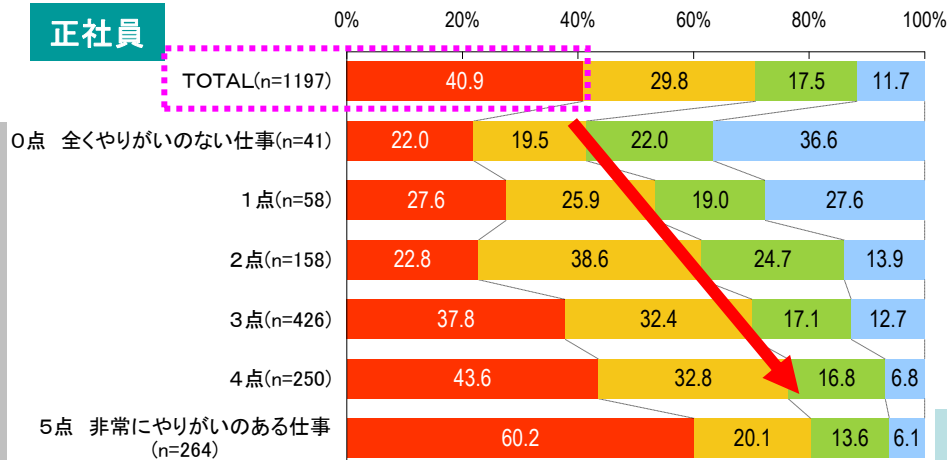
仕事のやりがい度と就業継続意向(雇用形態別)

子どもを産んでも仕事を続けたいと思っていた

● 妊娠判明時の仕事のやりがい別の就業継続意向

■ あてはまる ■ どちらかといえばあてはまる ■ どちらかといえばあてはまらない ■ あてはまらない

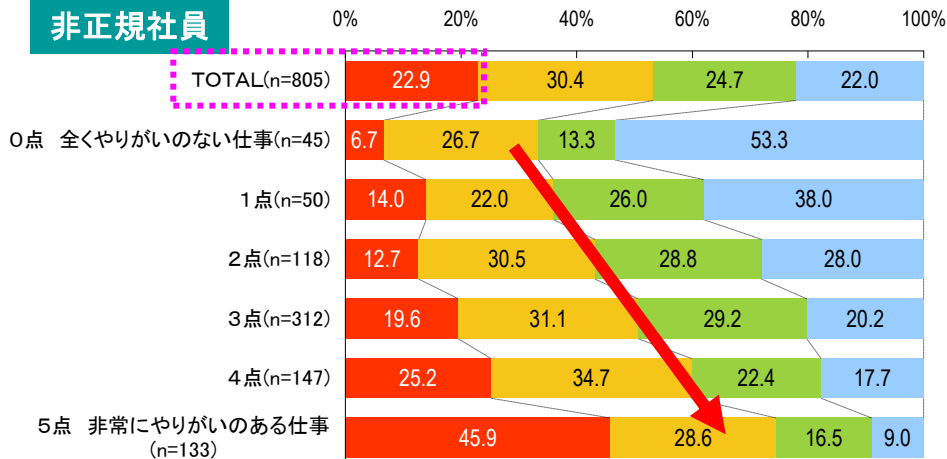
正社員



子どもを産んでも仕事を続けたいと思っていた

■ あてはまる ■ どちらかといえばあてはまる ■ どちらかといえばあてはまらない ■ あてはまらない

非正規社員



- 正社員のほうが、非正規社員より就業継続意向は高い。
- 雇用形態にかかわらず、正社員も非正規社員も仕事のやりがい度が高いほど、就業継続意向が高い。

低↑仕事のやりがい↓高

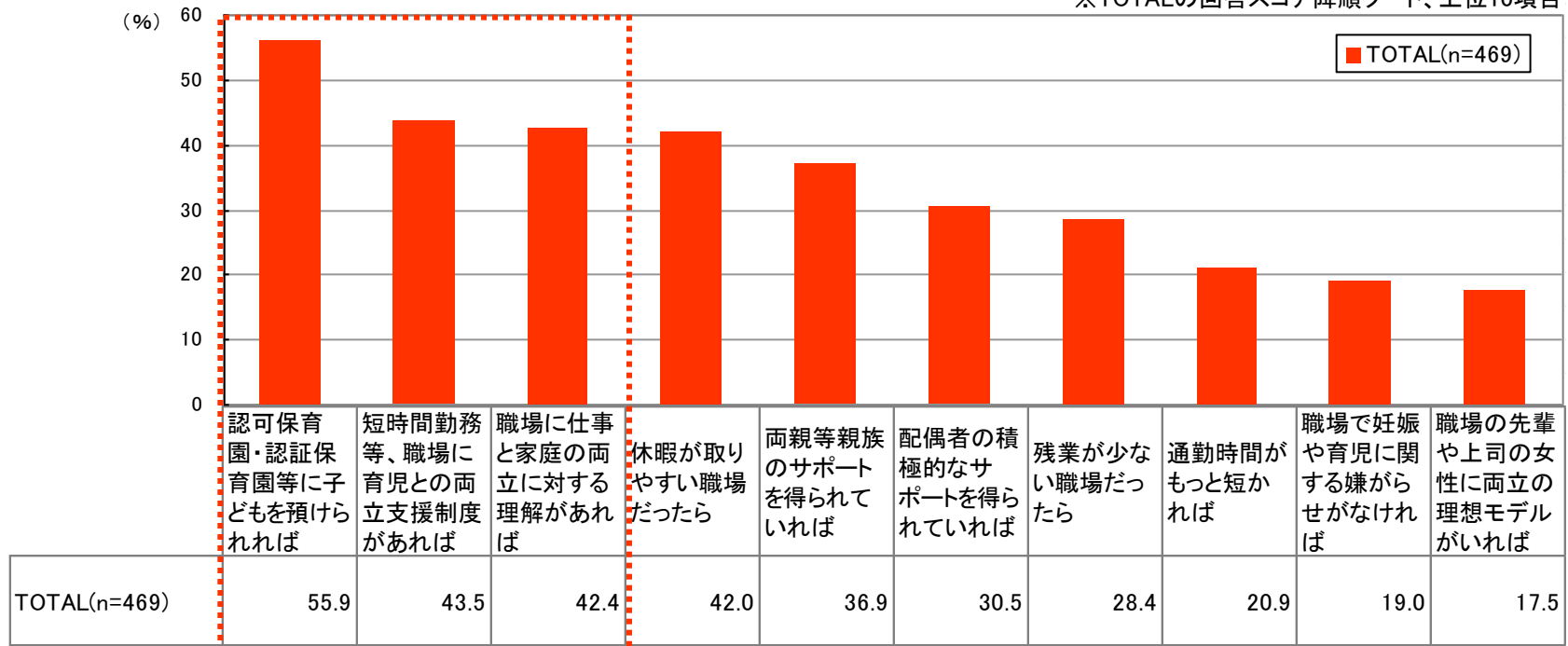
何が実現していれば、自身は仕事を続けていたと考えるか

【就業継続の意向があって就業継続しなかった者】

- 第1子妊娠判明時に就業継続の意向があって就業継続しなかった人が、どのような状況であれば就業継続していたか聞いたところ、「認可・認証保育園等に子どもを預けられれば」が最も高く、ついで、「職場に両立支援制度があれば」、「職場の両立に対する理解があれば」となっている。

●何が実現していれば、自身は仕事を続けていたと考えるか(複数回答)

※TOTALの回答スコア降順ソート、上位10項目



Q.第1子が1歳になったとき就労していない方:どのような状況であれば仕事を続けていたと思いますか。あてはまるものをすべてお答えいただいた上で、最もあてはまるものを1つだけお答えください。(グラフは複数回答を元に作成)

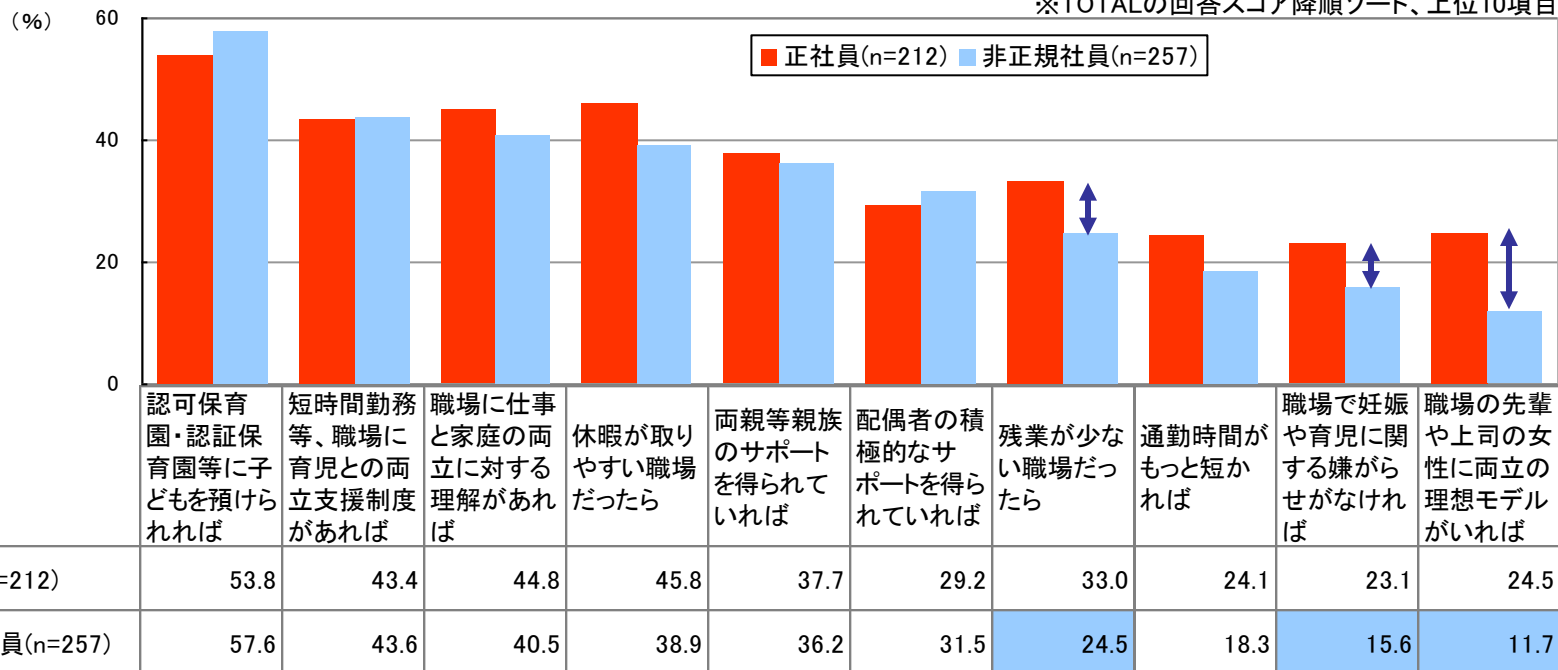
何が実現していれば、自身は仕事を続けていたと考えるか

【就業継続の意向があって就業継続しなかった者】

- 就業継続の意向があって就業継続しなかった人について、正社員と非正規社員で差が大きい項目は、「残業が少ない職場」、「職場で妊娠や育児に関する嫌がらせ」、「職場に両立モデルがあること」である。

●何が実現していれば、自身は仕事を続けていたと考えるか(複数回答)

※TOTALの回答スコア降順ソート、上位10項目



Q. 第1子が1歳になったとき就労していない方:どのような状況であれば仕事を続けていたと思いますか。あてはまるものをすべてお答えいただいた上で、最もあてはまるものを1つだけお答えください。【妊娠判明時_継続意向者】

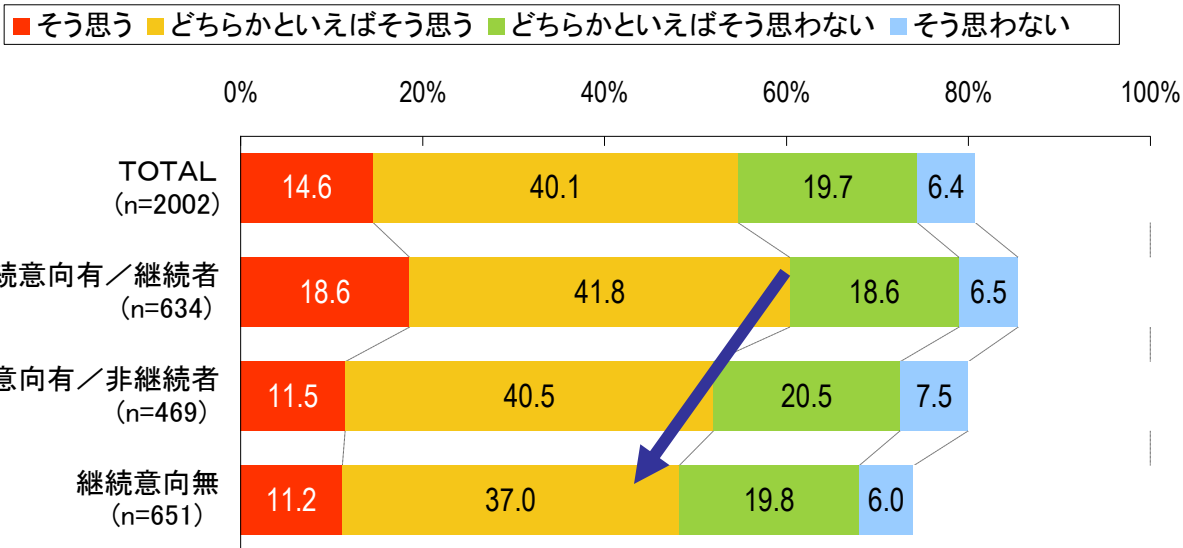
※ ■は、正社員に対して5%水準で有意に高い
 ※ ■は、正社員に対して5%水準で有意に低い

夫婦における役割分担の納得度と自身の就業継続意向 家事や育児の意識と配偶者とのコミュニケーション

- 家事・育児の分担や自身の就業継続に関する納得度について、継続意向がありながら非継続の人と継続者を比べると、**継続者のほうが、夫婦の適切な役割分担について、納得したと考えられる。**

●夫婦の役割分担について等の話し合いの納得度

夫婦の適切な役割分担について、あなたは納得した



Q. 家事の分担や育児の分担、配偶者の就業継続についてなど、何らかの話し合いをした方におたずねします。
あなたは、話し合いの内容や結果についてどのように感じましたか。
夫婦の適切な役割分担について、あなたは納得した【再集計】

※第1子の妊娠判明時から1歳になるまでの間の話し合いの状況

女性の就業継続意向と両親の意識(本人の就業意向別)

- 継続者では、両親がともに「**出産後も女性は仕事を続けるべき**」と考えていた人が多い。継続意向が無い人では、両親がともに「**結婚したら女性は家事・育児に専念**」と考えていた人が多い。

●女性の就業継続に関する小さい頃の両親の考え

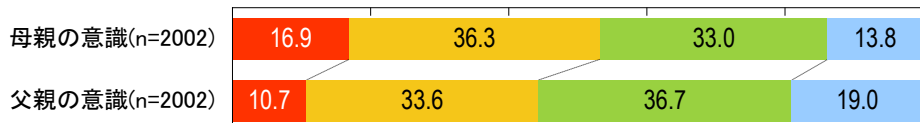
【A】「結婚・出産しても女性は仕事を続けるべきだ」

【B】「結婚したら女性は家事・育児に専念すべきだ」

TOTAL

■【A】に近い ■どちらかという【A】に近い ■どちらかという【B】に近い ■【B】に近い

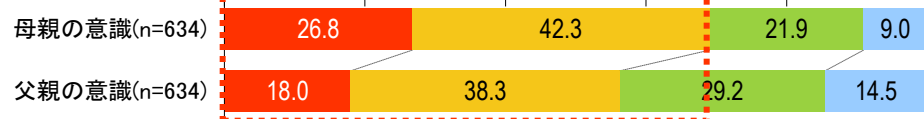
0% 20% 40% 60% 80% 100%



継続意向有 / 継続者

・両親ともに「Aに近い」が多い

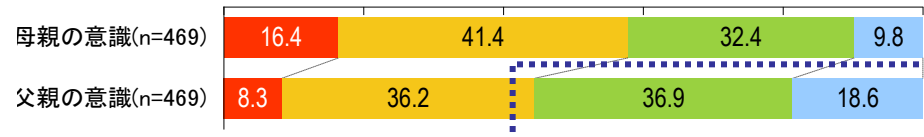
0% 20% 40% 60% 80% 100%



継続意向有 / 非継続者

・特に父親で「Bに近い」が多い

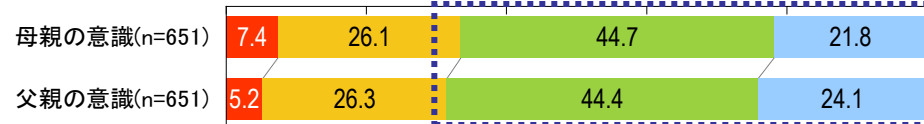
0% 20% 40% 60% 80% 100%



継続意向無

・両親ともに「Bに近い」が多い

0% 20% 40% 60% 80% 100%



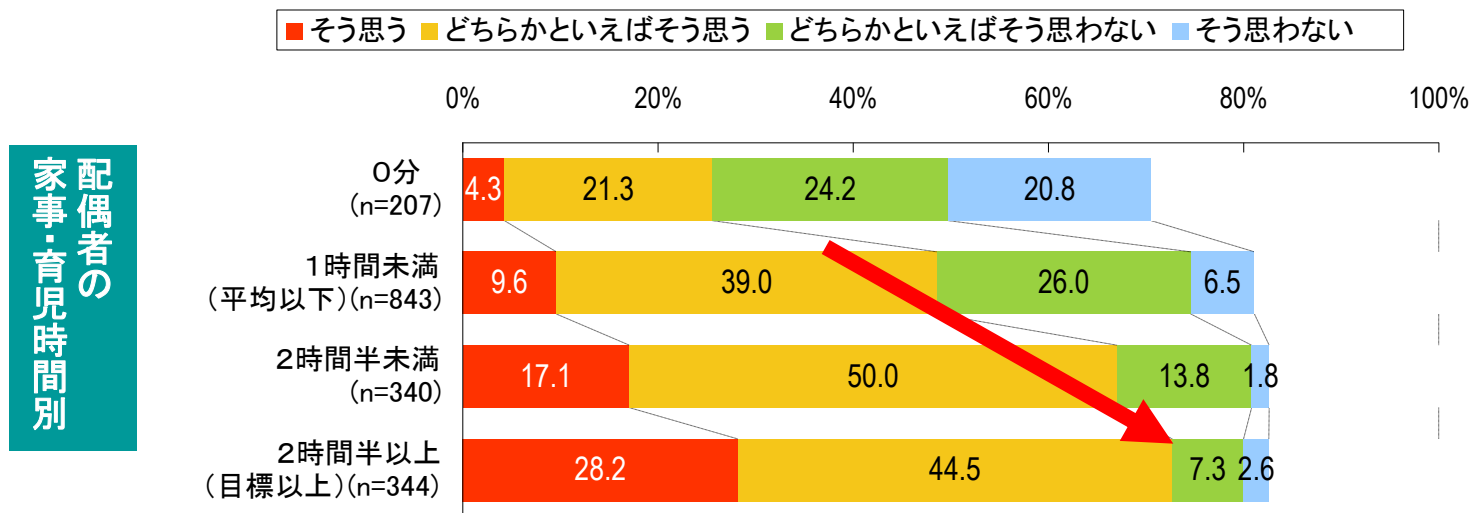
Q.あなたは小さい頃(概ね小学生の頃)、仕事や家事、育児に関するご両親の意識についてどのように感じていました。以下、「A、B」のうち、あなたの感じ方に近いと思うものをお答えください。

夫婦における役割分担の納得度と配偶者の家事・育児時間

- 子どもが1歳時点の配偶者の家事・育児時間が長い人ほど、家事・育児の分担や自身の就業継続について話し合いの結果、「夫婦の適切な役割分担について、納得した」と回答している人が多い。

●夫婦の役割分担について等の話し合いの納得度

夫婦の適切な役割分担について、あなたは納得した



※家事・育児時間は子どもが1歳時点の時(平日)

Q.家事の分担や育児の分担、配偶者の就業継続についてなど、何らかの話し合いをした方におたずねします。

あなたは、話し合いの内容や結果についてどのように感じましたか。

夫婦の適切な役割分担について、あなたは納得した【再集計】

※第1子の妊娠判明時から1歳になるまでの間の話し合いの状況